

最期のときまで安心して暮らせる
東京を目指して

Active Fukushi



第22号

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

●東京都高齢者福祉施設協議会 広報誌

アクティブ福祉

平成27年8月20日発行

東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei>

または **東京都高齢者福祉施設協議会** で検索



SPECIAL REPORT

従来型施設イノベーション ～制限を取り除き当たり前の生活を取り戻す!～

スペシャル
レポート

ウエルガーデン伊興園

表紙写真: 那須高原一泊旅行での記念撮影

CONTENTS

アクティブ福祉 第22号

- スペシャルレポート
従来型施設イノベーション 2
- 特別寄稿
建替えに携わって 3
- 特集
頑張っている仲間へのメッセージ
～職員の様子アンケートより～ 4
- 職員研修 Hop Step Jump
課題解決が職員のやる気を育てる! 6
- ひと言! 物申す!
施設における「介護職員処遇改善加算」
についてどう考えますか? 7
- 養護分科会
養護老人ホームの地域との関わり 8
- 軽費分科会
社会福祉法人福栄会及び東海ホーム
(軽費A型)の地域貢献活動について 9
- センター分科会
ギャップシニア・コンソーシアムが目指すもの 10
- 「生活相談員のためのショートステイマニュアル」
を改訂しました! 10
- 「アクティブ福祉in東京'15」参加者募集 11
- 第72回全国老人福祉施設大会(東京大会)開催
／編集後記 12

スペシャル
レポート

従来型施設イノベーション

～制限を取り除き当たり前の生活を取り戻す!～

社会福祉法人ウエルガーデン ウェルガーデン伊興園 ●施設長 すぎもと こうじ 杉本 浩司

ウエルガーデン伊興園は、従来型施設で各フロアに50名以上の方が生活しています。施設だから、要介護者だからといった制限を取り除き、ご利用者が「当たり前の生活」をできるように取り組んでいます。

毎日がフードコートは嫌! もっと少人数で食べたい!

従来型施設でよく見る光景ですが、各フロア50名以上のご利用者全員が1つの食堂で食事をしてきました。さながら、ショッピングモールの「フードコート」です。苦手な方もいるでしょうし、かなり窮屈な環境でした。

少人数でゆったりと食事をしたいというご利用者の「当たり前の声」に応え、フロア中央に間仕切りをつけ、2ユニットにし、食堂がないユニットには簡易キッチンを設置し、新たに食堂を作りました。各ユニット25名程度でゆったりと食事ができるようになりました。職員の動線も短くなり、今までよりもご利用者の声に応えることができるようになりました。



キッチンを備えた少人数の食堂でゆったり食事

自宅と同じ普通のお風呂に入る

入浴は昨年の3月まではご利用者130名中50名は寝たまま入る機械浴でした。その他は

大きいお風呂で裸を見られながらの入浴でした。機械浴では、職員が常時腰を曲げながらのケアとなり大きな負担でした。“自宅と同じお風呂に当たり前に入る”をコンセプトに浴室を6室の個室個浴に全面改修しました。改修後は全身拘縮の方、ターミナルケアの方も全ご利用者が家と同じお風呂に入ることができるようになりました。



自宅のお風呂と同じ個室浴槽



サインや壁紙をマカロンカラーにし、入浴に楽しさを演出

従来型施設でも個別ケアができる

機械浴も大きいお風呂もなくなった当施設で、「大きいお風呂に入りたい」という声がありました。生活では“当たり前の声”です。先日、那須高原まで1泊の温泉旅行に行きました。今後も個別ケアを実践し、ご利用者の「当たり前の生活」を守っていきます。

ウエルガーデン伊興園

<http://welgarden.or.jp/ikoen/>



建替えに携わって

●特別養護老人ホーム羽村園 総務課長 野島 利光 のじま としみつ

建替え時に直面するさまざまな課題

昨今、建物の老朽化による福祉施設の建替え問題がクローズアップされています。私は、事務員として羽村園の移転改築に携わり、一番大変だったと感じたことは「規制の範囲内でどこまで自分達の理想に近づけることができるか」という部分でした。

建替えの際には様々な法律の基準をクリアしなければならず、一つの法律をクリアしたところで、今度は違った法律により制限されるといったことがありました。

建替えの問題が取り上げられる理由は、こうした建替え時に直面する様々な法規制にもあるのではないかと思います。

建替えの際にはたくさんの人間が、改築計画に参画しており、四方八方から矢継ぎ早に意見が挙がり、対応に追われる日々が続きました。

幅広い人脈が困難を克服するカギ

建替えに向けて様々な対応に追われるなかで、こうした困難を乗り越えることができたのは以下の3点があったからだと思いました。

- ① 普段あまり接しない法律用語を学びながら慣れていく事ができたこと

- ② 専門家や建替えの経験者に相談できる環境があったこと

- ③ 法律や規則の中で運用できる範囲を理解して、所管庁と交渉ができたこと

ありがたいことにわたしの周りには知識を持った方々が多くおり、法律用語や建替えの相談に乗ってくれる方、所管庁との交渉方法を教えてくれる方など、それぞれから色々なアドバイスをいただきながら、困難を乗り越えることができました。私が前向きにこの仕事に打ち込むことができたのは、こうした人脈あってのものだと感じています。

また、移転先の町内会の皆様のこと忘れてはなりません。建替えをきっかけに計画の初期段階から関わっていただき、様々な対話を続けながらお互いの関係を深めていくことができました。こうした多くの方の支えがあり建替えを無事に終えることができました。

いま振り返ると苦労や我慢の連続でしたが、建替えをきっかけにした人との出会いや学びは、それを上回る大きな財産となったように思います。

この原稿を書き終え、ふと飲んでいた缶コーヒーに目をやると、次のように記されていました。「忍耐とは苦いものだ、しかし、その果実は甘い。」

羽村園

<http://www.tokyo-busonkai.or.jp/hamura/>



建築途中、雪が降り積もる様子

完成施設外観



完成間近の桜が咲く玄関



頑張っている仲間へのメッセージ

～職員の様子アンケートより～

<アンケート概要>

今回の調査では現場の最前線で働く介護職員がどのような思いや考え、やり甲斐を感じて日々の仕事に取り組んでいるのかについて「生の声」をお聞きすることを目的としました。この部分をひも解くことにより、介護職という存在を見つめなおすとともに、人材の確保・育成・定着に向けたこれからの活動に対する多くのヒントを得られるのではないかと考えたのです。

同じ介護職302名の声を集め、思いを見える形にまとめたことにより、共通した課題や魅力というものが見えてきたと感じています。この特集では、そのエッセンスとして、「頑張っている仲間へのメッセージ」をまとめました。

期間 平成26年10月10日～

平成26年10月31日

対象 東京都高齢者福祉施設協議会会員
施設(特養・養護・軽費) 525施設

回答 302名

※今回のアンケート対象会員施設へは詳しいアンケート結果をまとめた報告書を送付いたします。報告書は、東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイトよりPDFをダウンロードしてご覧いただけます。

東京都高齢者福祉施設協議会

検索

＼Q1／

事業所の理念を理解してる？

- 地域貢献
- 利用者主体
- 人権尊重
- その人らしく生活を送っていただけるよう支援していく
- 利用者の個性の尊重
- 働く者として個人及びチームとしてのケアの追求

YES 93.7%



＼Q2／

この仕事をしていて良かった？

- 誰かの役に立てる
- 利用者からの感謝と笑顔がもらえる
- 様々な人との関わる体験が学びになる
- やり甲斐を感じられる
- 人の最期のケアに携わり、生きる意味を考えることができる
- 人とかかわることで得られる喜び(体験)が素晴らしい
- 毎日が充実しているところ
- 人に優しくなれるところ

YES 96.0%

＼Q3／

この仕事をして、自分は変わった？

- 人への感謝の気持ち、思いやりの気持ちを強く持てた
- 相手の立場に立って考えるようになった
- 心が穏やかになり、人に対して優しくなれるようになった
- 礼儀正しくなった
- 両親を大切にしようと思うことが増えた
- 我慢強くなった
- 根気強くなった
- 人間としての幅が広がった
- 責任感が強くなった

YES 86.4%

＼Q4／

普段の仕事で大切にしていることはある？

- 利用者に笑顔で丁寧に接する
- 安心・安全な生活環境を創る
- 目配り・気配り・心配り
- 報告・連絡・相談(ホウレンソウ)
- 明るく、元気にあいさつをする
- コミュニケーションとチームワーク
- 利用者に対する傾聴と受容
- 尊敬の念
- 礼儀正しくなった
- 一期一会と思い、その時を大切にしている
- どんな時でも、利用者様の前では明るく元気に笑顔でいる
- 自分自身も楽しみ入居者も楽しいと思ってもらえるよう考えている

YES 98.3%



\Q5/

職場の人間関係で工夫をしている？

- スタッフへの配慮
- コミュニケーションを大切に、多くの人と話す
- こまめな声かけ
- 悪口は言わない。聞かない
- 笑顔で元気よく
- 感謝の気持ち
- 明るい挨拶を心がける
- 職員間での報・連・相

YES 88.1%



\Q6/

将来の目標は？

- 資格を取る
- 介護福祉士
- 社会福祉士
- 介護支援専門員
- 施設長になる
- 日本一の施設
- 故郷に自分の入りたい施設を造る
- 体が許す限り介護職で頑張る
- 住んでる地域の福祉に貢献
- 介護職で年収1000万円

\Q7/

若い世代へひとこと

- 大変だけど、やり甲斐のある仕事です
- 人生の大先輩から多くのことが学べる魅力ある仕事
- いくつもの可能性と夢がある
- 介護の現実を見て働こう
- 大変でも1つずつチャレンジしていこう
- 若い世代の皆さんが、「働きたい!」と思う世界になるよう、頑張ります
- 3Kと言われているが、それ以上に学ぶことや、経験、得るもの・事が多いです
- まずは、飛び込んでみて感じて下さい。楽しいですよ

\Q8/

国や東京都、東社協への意見

- 働きやすい環境づくりを
- 介護職の処遇を改善して
- 若い世代へのイメージアップ
- 社会的地位の向上



\Q9/

介護の仕事は
今後どうなるといい？

- 大変さばかり注目されているが、介護の素晴らしさを伝えたい
- 一人ひとりのスキルアップ
- 介護職の地位向上
- 人員増
- 給料アップ
- ゆとりある職場でゆとりある介護をしたい
- 移乗介助のためにロボットがあれば
- 家族参加型。ボランティアでも良いので家族入居者
- 小学生のになりたい仕事ランキングにランクイン
- 家族、入居者、職員がチームとして成り立つ

アンケートから見えてきたこと

それは、福祉施設の専門職として、自ら考え行動するプロフェッショナルの姿。多くの職員が、利用者の生活を支援する施設の要としての自覚を持っていました。そして、やり甲斐を感じていることを、他施設の仲間に発信していきたい、という思いが感じられました。

一方で施設としても、介護業務の見直しや介護機器の導入、間接業務の業者委託、働く環境の整備等々を検討していくことが求められています。



委員長からのエール

私はお年寄りが大好きで、特別養護老人ホームで30年以上働いています。措置から契約へ、介護保険制度施行、資格制度の創設などなど、激動の時代を介護職、生活相談員、施設長と現場から経営職へと歩んできました。今、その歩みの総括に取り組んでいます。大好きなお年寄りと毎日が過ごせたことに、やり甲斐を感じ、お年寄りや仲間たちからいただいたものを地域に還元したいと思っています。

利用者支援検討委員会 委員長 ひらばやし 平林 こ ちよ子

職員 研修



Hop Step Jump

第13回

課題解決が職員のやる気を育てる!
～PDCAサイクルで自律した職員育成～

● 社会福祉法人福栄会 特別養護老人ホーム 晴楓ホーム
相談員 富樫 幸範 / 介護職員 大塚 桂子・高塚 倫子

■職員のやる気向上=サービスの向上

当施設で実施した第三者評価の結果で、「職員のやる気向上に取り組んでいる」の項目でリーダー層は30%と、取り組みが足りていないという低い評価結果となりました。やる気が低下することで、サービスの質も低下してしまうのではないかと考え、委員会を発足し、問題解決を目指す事になりました。そこで、議論をした結果、

- ① 職員の積極的な取り組みを評価するシステムが弱いのでは
- ② 様々な課題を解決する検討チームがあるが、チームの目的が不明確なこともあり仕事の達成感が低下しているのでは
- ③ リーダー層の職員が、人を育てることへの意識の低さが原因ではと考えました。

■職員のやる気向上が“人を育てる力”になる

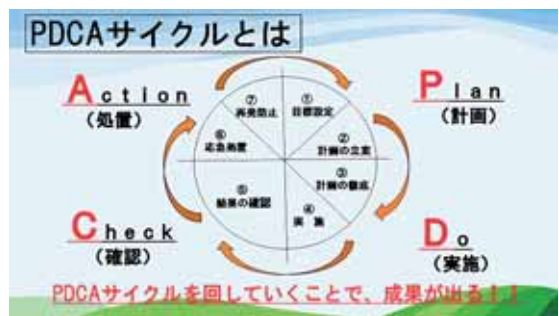
人が育つ職場は、職員が自分たちの頭で考え、問題を解決するボトムアップ型の組織であると考えました。「PDCAサイクルを活用した問題解決の構築」を目指し取り組みを行いました。問題解決や改善を通じて、自分で考え『自律した職員』が育つことを期待したのです。そこで、職員が明確な目標・目的を持って仕事に臨めるように、PDCAが内容に盛り込まれた「個人業務管理シート」と委員会や検討チーム用の「目標・行動計画シート」を作成しました。そのシートを活用することで、目標を達成するために、「何を」「誰が」「いつまでに」「どうやって」実行するのかがより明確になりました。また、書面化することで目的や目標の共有化がしやすくなりました。また、毎月の進捗状況の確認や中間点検で振り返りを行うことで、修正点も見つけやすくなり、目標も達成しやすくなりました。

その結果、自分の立てた目標を意識し、行動に責任を持って仕事に取り組む職員が増えています。

■介護は“人”が重要

“人を育てる力”が備われば、人材が育ち、現場が強くなり、サービスの向上が図れます。管理職やリーダー層がその育てる力を身に付けることで、より働き易い環境が生まれ、職員のモチベーションが高まると思います。

輝く介護職員を一人でも多く育てることが、私たちの使命であると思います。





あなたは 施設における「介護職員処遇改善加算」について どう考えますか？

●生活相談員研修委員会

平成20年度に介護従事者の人材確保・処遇改善に関する法律が整備され、平成21年10月より「介護職員処遇改善交付金制度」が導入されています。平成24年度の改正時より、介護報酬に組み込まれる「介護職員処遇改善加算」に変わり、平成27年度以降も各事業所別に交付率を定め、加算の計上を位置付けています。

今度、事業全体として全職種の人材定着を考えたとき、「介護職員に限定」したこの加算のあり方について、生活相談員の視点にて議論しました。

改善すべき

- 看護師へも拡大をすべきと思う。人材確保は介護職員にとどまらないため、適正に加算の給付が対象職員にも反映されるよう整えていかなければならないと思う。
- 特養の入所要件が要介護3以上となり、更に入所者が重度化していく現状の中で、実際看護師やリハビリ職員も介護に入っているため、対象者は拡大すべき。
- 生活相談員は100人に対して1人の配置であるにも関わらず、他職種の管理、利用者、家族の調整等、非常に業務量の多い職種。給与や配置数を考える必要があるのではないか。
- 施設の規模、小規模より少ない地域密着型はさらに厳しい状況。
- 介護職員以外の職種についての「改善」に繋がらない。
- 地方では、「無くても良い」という意見もある。都市部との処遇改善で差をつけても良いのではないか。
- 多職種が協力し合って利用者の生活を支えているため公平にするべき。
- 月収ベースでは収入が上がったように思うが、法人の収入は下がっているため、ボーナスで調整され、年収は変わらないというのが現実。

●施設では、介護職以外の職員にも配慮してくれたが、そのことで人件費が増えて運営に支障をきたすことになるのが心配。

●高齢以外にも、障害、保育園など様々な事業を行っているので、高齢に限らず全職員に同じように上乘せを行っている。

現行通りで良い

- 法人の私物化が問題視されているなか、加算（収入）の一部を介護職員の人件費という限定的なものにすることで、給与の適正化の布石になれば良いと思う。
- この対象が多職種に広がっていくことを期待する。
- 良いとは思えないが、介護職の確保は施設運営に大きく影響（サービス提供）することで、ある意味「特別扱い」をしないと集まらないのではないか。
- 看護師の給与は元々高く設定されているので、介護職員のみで良いと思う。



協議会の動き

- 5月22日 東京都高齢者福祉施設協議会 総会 開催
- 7月23日 軽費分科会 消費税増税に関する要望書を東京都へ提出

養護老人ホームの地域との関わり

● 社会福祉法人多摩養育園 養護老人ホーム竹の里 施設長 沼尾 治巳

八王子地区の養護老人ホームの現状

東京都の西に位置する八王子市には、浅川ホーム、美山苑、新浅川園、楯の里、竹の里の5施設の養護老人ホームがあり、合わせて580名の利用者が生活しています。東京都内34施設の中で、一番密集して養護老人ホームが配置されている地域です。

養護老人ホームは、日常生活が自立した方を受け入れているため、医療機関や地域住民の認知度が低い高齢者施設です。また、一般財源化により各区市町村の基準の格差が発生し、入所希望待機者が減少している現状です。また、入所状況は、利用者の高齢化・重度化が進み、要介護状況の方を一定数受け入れており、職員の介護予防や介護技術に対する専門性が求められてきています。

地域包括との合同会議に参加、存在意義を示す

養護老人ホームの認知度を高める取組として、美山苑園長の提案で、在宅介護に関する相談、保健・医療・福祉に関する情報提供などを行っている、八王子市の地域包括支援センターの合同会議に参加させていただき、今後の連携を目指しました。内容としては①養護老人ホームの事業紹介、②地域資源としての活用方法、③ショートステイの利用についてなどを広報し、養護老人ホームとしての存在意義を示す第一歩としました。

地域住民と利用者の架け橋に

現在、地域への社会貢献活動として実施していることは、地区内の地域包括支援センターや地域自治会サロンと協賛しての公開講座開催、施設の貸し出し、出張講座など、養護老人ホームの『人』や『モノ』などを地域資源としての活用が主になっています。

また、5施設の内、竹の里が位置する犬目町は、日本の古き良き時代が継承されており、犬目町民は大きな家族として助け合おうをモットーに『犬目家族』を合言葉にしています。竹の里の利用者も犬目町の一員として『犬目家族』として温かく受け入れていただき、交流事業が年々広がっています。小規模ではありますが、利用者自身が、小学生の見守りボランティアや公道清掃、特別養護老人ホームでのボランティア活動、保育園等への裁縫ボランティアなどの社会貢献活動も行っています。

養護老人ホームに課せられた、利用者の自立支援と高齢者のセーフティネットとしての役割を担い、地域住民と利用者の架け橋となり、地域の活性化と人の環を広げる活動を地道に進めていくことが、今後とも重要であると考えています。



近隣保育園から「竹の里手づくり工房」にランチョ
ンマット作成の依頼を受け作成しました。ランチョ
ンマットを汚さないように、こぼさずきれいに食べ
る子が増えたと保育園から嬉しい反響を得ました。
写真は、お礼に給食に招かれた時のものです。

● 主な協議会関係研修会等の予定 (9月～11月)

9月4日	軽費分科会 生活相談員連絡会研修会
9月14日	ショートステイ情報交換会
9月18日	ユニットケア連絡会連続研修 (第2回)
9月26日	生活相談員実践力アップ研修 (第5回)
9月29日	アクティブ福祉 in 東京15
10月7日	栄養研修委員会研修会
10月24日	生活相談員実践力アップ研修 (第6回)
10月23日	養護分科会 研修会
10月30日	能訓練指導員研修委員会研修会
11月11日 ～13日	第72回全国老人福祉施設大会 (東京大会)
11月15日	チームマネジメント フォーリアップ研修
11月16日	サービスマナー研修会 後期日程(第1回目)
11月21日	生活相談員実践力アップ研修 (第7回)
11月26日	ユニットケア連絡会連続研修 (第3回)

※7月末時点での予定となりますので、
内容の変更・中止となる場合があります。
また、記載していない研修会が開
催される場合もあります。詳細は協議
会ウェブサイトや会員向け開催通知
等でご確認ください。

社会福祉法人福栄会及び東海ホーム (軽費A型)の地域貢献活動について

●社会福祉法人福栄会 東海ホーム施設長 よしばら しんいち
吉原 伸一

自治会・町会協同でミニサロン開催

今回は、当法人の地域貢献活動の紹介及び軽費老人ホーム東海ホーム（品川区東品川）についてご紹介いたします。

当法人の在宅課が中心となり、地域の自治会、町会と協働でミニサロンを2か所開催しています。それぞれの町会会館にて健康体操、昼食交流会、脳トレの実施等のプログラムを組み、閉じこもり予防、いきがいつくり、交流の場として毎回20名前後の参加者が定着しています。法人の喫茶スペースで「折り紙教室」も月2回行っています（写真1）。



〔写真1〕折り紙教室

今春、本部中庭の改修工事を行いました。これは、福祉避難所の機能効果を実現するため、植栽の芝生化、段差解消等によるオープンスペース化、かまどベンチの設置及び水回り増設等を行いました（写真2）。



〔写真2〕防災かまどベンチ

近隣保育園と世代を超えた交流会を実施

軽費老人ホーム東海ホームの地域貢献ですが、本年度は、同一敷地内にある高齢者住宅（定員50名）の利用者の方々に、ホームが軽費老人ホームの入居者に提供している介護予防や音楽療法等の活動への参加を推進していくことを重点目標としています。

また、地域の企業や幼稚園・保育園、小中学校等学校教育の現場からの社会貢献活動のニーズも高くなっているので、積極的に交流の機会を設けています。

特に近隣保育園と交流会は、世代間交流の目的も相互にあり、年に5～6回交流会を開催しています（写真3）。3月にはホームの利用者が折り紙を折って保育園に持参され、卒園される園児の皆さんの門出を祝いました。



〔写真3〕保育園との七夕交流会

その他、利用者と職員で近隣小学校のマラソン大会の応援や保育園の芋掘りに参加したり、中学校で車いす講座を開催したりと「出来ることを少しずつやっていこう」を合言葉に地域に出る機会が増えています。

今後も地域の皆様との連携の中で、地域のニーズや課題を迅速に発見・対応し、ホームの人材や設備等の資源を有意義に活用していくことで地域の皆さんが住み慣れた品川で末永く生活できるように貢献活動に取り組んでまいります。

社会福祉法人 福栄会 <http://www.fukueikai.or.jp/>

ギャップシニア・コンソーシアムが目指すもの ～多様な主体の連携で生み出すニーズ起点のサービス～

●センター分科会

平成27年度 第1回 センター分科会 開催

7月28日(火)、今年度1回目となるセンター分科会の総会が開催されました。当日は、約50名のセンター長の皆様にご参加いただきました。

分科会前半では、東京都高齢者福祉施設協議会総会での承認事項、各委員会や合同委員会の動きの報告が行われました。後半では、「ギャップシニア・コンソーシアムが目指すもの ～多様な主体の連携で生み出すニーズ起点のサービス」と題し、在宅高齢者の課題を株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー 齊木 大氏にご講演をいただきました。

ギャップシニアとは

ギャップシニアとは、“日常生活がほぼ自立している人”と“要介護者”の間、加齢や病気等により「できること」と「やりたいこと」に大きなギャップを抱えている高齢者の層を指します。ギャップシニア・コンソーシアムでは、地域の自治体や地域包括支援センターだけではなく、高齢者に身近な商店等を巻き込んだプラットフォームの構築を目指しています。官民が連携し取り組んでいくことで、ニーズに応えられるサービスの選択肢が充実し、ギャップシニアの生活の質向上や地域の働く機会の増加も期待されています。

社会福祉法人に今後求められているサービス開発

講演の最後には、社会福祉法人として今後のサービス開発で重要な視点について、「もっとも大切なのは、ギャップシニアのニーズを起点とするサービスを考え、そのすべてを自法人で担うのではなく、自法人でできること、他法人に任せられること、他法人と連携してできることを検討していくこと」とお話しいただきました。地域の多様な主体とのネットワーキングを推進し、地域の高齢者が質の高い生活を送り続けられる地域をつくっていくことが求められています。

講義終了後には、講師への質疑も飛び交い、今後の在宅高齢者支援のためのヒントになった様子が伺えました。



「生活相談員のためのショートステイマニュアル」 を改訂しました!

●特養分科会：ショートステイマニュアル作成小委員会一同

平成27年1月に発行された「生活相談員のためのショートステイマニュアル」の改訂版を6月に発刊しました。平成27年4月に改正された介護保険法に関する資料も加え、より充実した内容となっています。基本的な知識の習得からリスクマネジメントの視点、困難事例への対応など、ショートステイに関わる相談員や多職種のみなさんにとって必携のマニュアルとなっています。

★東社協HPの「福祉の本」から、ぜひお買い求めください。





「アクティブ福祉in東京'15」 参加者募集!

9月29日(火)、10回目を迎える高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉in東京'15」が開催されます!
今年では76題の口演発表、10題のポスター発表のほか、「どんなケアがほしいのか? 当事者主権の立場から」をテーマに、社会学者上野千鶴子氏による記念講演を開催する予定です。是非奮ってご参加ください。

● 開催要項 ●

- 日 程** ■平成27年9月29日(火) 9:20～17:00 (受付は8:15～)
- 会 場** ■京王プラザホテル (東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL.03-3344-0111)
- 参加対象** ■①東京都高齢者福祉施設協議会・東京都介護保険居宅事業者連絡会 会員事業所の職員
②高齢者福祉の仕事に関心のある学生
(介護福祉士、社会福祉士等の養成校の学生など)
③都内高齢者福祉施設等の利用者、家族、ボランティアなど
④高齢者福祉に関心のある方
- 定 員** ■1,400名程度
- 参加費** ■6,000円 (学生は500円)
- 申込方法** ■開催要綱および申し込み方法は東社協 東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト (下記参照) に掲載しております。
- 【東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト】
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>
※「アクティブ福祉 15」で検索してください
- 主 催** ■社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
「アクティブ福祉 in 東京」実行委員会
- 共 催** ■社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都介護保険居宅事業者連絡会

お問い合わせ

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL: 03-3268-7172 FAX: 03-3268-0635

高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉in東京」10年の歩み

開催回 (開催年)	講演・シンポジウムテーマ	備 考
第1回 (2006年)	記念講演 瀬戸内寂聴氏 「ふくしのしごと」	
第2回 (2007年)	記念講演 養老 孟司氏 「ふくしのしごと」	
第3回 (2008年)	記念講演 落合 恵子氏 「母の介護を通じて考えたこと ～介護従事者や介護の仕事を目指す学生への期待～」	・東京都福祉保健局長賞贈呈開始
第4回 (2009年)	記念講演 江原 啓之氏 「介護・高齢者福祉に携わる人々へのメッセージ」	
第5回 (2010年)	シンポジウム 「あなたに逢えてよかった ～伝えたい介護の魅力・感動・未来～」	・マスコットキャラクター「アクティブル」着ぐるみ登場 ・ポスターセッション開始
第6回 (2011年)	シンポジウム 「今あるいのちに感謝 ～ともに生き、ともに学ぶ 東日本大震災の経験をもとに～」	・韓国 京畿道老人福祉施設連合会 発表
第7回 (2012年)	記念講演 笑う介護士 袖山 卓氏 「Lett'ss Challllenge!! ～利用者の光かがやく笑顔のために～」	・ポスターセッション賞贈呈開始
第8回 (2013年)	シンポジウム 「アクティブ福祉グラウンドデザイン みんなで語ろう! 介護の仕事とこれからの福祉」	
第9回 (2014年)	シンポジウム 「語ってもらおう! 日本の介護 ～広がる海外からの介護人材」	
第10回 (2015年)	記念講演 上野千鶴子氏 「どんなケアがほしいのか? 当事者主権の立場から」	・東京都介護保険居宅事業者連絡会 共催

第72回 全国老人福祉施設大会(東京大会)開催

●全国老人福祉施設大会(東京大会)開催地実行委員会 実行委員長 にしおか 西岡 おさむ 修
事務局長 みずの 水野 たかお 敬生

11月11日～13日の3日間、公益社団法人全国老人福祉施設協議会(全国老施協)と東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会の共催により、第72回全国老人福祉施設大会(東京大会)を開催します。

同大会は、我が国の社会福祉法人や介護の制度改革が、国民の暮らしに与える影響に鑑み、時代に応え得る社会福祉法人として、いかにして地域をつくり、支える戦略を構築するか、共通の理解を持つことを目的としています。



1. 参加対象

高齢者福祉・介護事業の施設・事業所、行政、社会福祉協議会等の役職員
3,000人程度

2. 日時・会場及び内容

2015(平成27)年11月11日(水)～13日(金) ※全3日間

(第1日目) 11月11日(水) 両国国技館／開会式、基調講演、記念講演

(第2日目) 11月12日(木) 品川プリンスホテル、ベルサール新宿グランド／分科会

(第3日目) 11月13日(金) 両国国技館／シンポジウム等、閉会式

3. 参加費(予定)

全老施協会員 : 18,000円

全老施協非会員 : 30,000円

詳細内容及び参加申し込み方法等は決まり次第、東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイトに掲載する予定です。

編集

後記

外出するのが
かなり苦痛な位
とても暑い日が続いてい
ます。熱中症などに充分気
を付けていきたいと思ひます。

今年4月より栄養研から広報編
集委員にさせて頂きました。内容が
まだよくわかっておらず先輩の
方々にただついていくのみです。よ
ろしくお願い致します。

今回、職員のみ甲斐アンケート
が特集されています。この仕事をし
て良かった?にYESが96.0%と
殆どの方々良かった。と感じてい
らっしゃいます。私も特養で働いて
29年(途中6年間病院勤務)になり
ます。ここまで来ると他のことは考
えられませんが、やはり、特養で働
いて良かった。と心から思っていま
す。話下手な私ですがご利用者と話
していると和みます。生活の一部に
なっていると思ひます。

編集委員会、社会福祉法人の社
会貢献の話もありました。今回
「養老老人ホームの地域との関わり」
や、「社会福祉法人福栄会及び東海
ホームの地域貢献活動について」が
載っていますので私自身しっかり
勉強していきたいと思ひます。

特別養護老人ホーム 江戸川光照苑

管理栄養士 清水 孝雄